

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年10月8日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100518
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム さくらが丘
所在地	鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘四丁目1番7号 (電話) 099-265-3700
自己評価作成日	令和6年8月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年9月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・認知症への理解を深めるとともに入居者お一人おひとりの生活スタイルを尊重し、個別の支援を目指しチームケアを行なうようにしています。
- ・感染症の兼ね合いで外部との交流の機会が以前と比較すると少なくなっていますが、今まで築いてきた地域との関係性が少しでも保てるよう、感染予防に努めながら校区の子供たちとの交流などの機会を持ち続けています。
- ・ホームの敷地内の花壇や畑を整備し季節の花々や野菜を入居者と共に育てながら身近に四季を感じて頂けるように努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、団地の中央に位置し、周辺には医療機関・スーパーマーケット・銀行・公園等があり、交通の便も良く家族や友人等が訪問しやすい所に位置している。
- ・町内会に加入し回覧板等で地域の情報を得ている。行事もコロナ感染により、少なくなっているが資源ごみ収集・清掃活動等に参加して、運営推進会議等へ町内会長や民生委員の参加もある。近くの託児所から窓越しではあるが、ハロウィン祭り等への参加もある。
- ・毎月さくらが丘だよりを家族へ発送し、事業所での生活の様子を報告することで家族の安心に繋がっている。
- ・職員間のコミュニケーションも良く、勤続年数の長い職員が多い。管理者は職員の個人的な相談にも応じている。
- ・事業所内に菜園があり、夏野菜を植えて収穫をしたり、外気浴や散歩をしたりして楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理念に落とし込み、毎朝理念の唱和をすることで意識付けを行なうことで実践に繋げている。	理念を玄関・ホールに掲示し、毎朝唱和して理念の実践に繋げており、年度末にケアの振り返りを行っている。たよりも理念を掲載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を重視し資源回収への協力や町内会への参加を行っている。	町内会に加入し、資源回収や清掃活動に協力するとともに文化祭には作品を出展している。毎年、地域の子供達を対象にハロウィンやクリスマス会を実施し、利用者との交流の機会にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	例年、地域の子供達向けに夏祭りハロウィンパーティーを開催、ふれあいの機会を設けていたが、現在では直接のふれあいは避けつつ実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催、例年は家族の参加も多く行政の皆さんとの意見交換が行えていたが、現在の参加者は代表者の方が主となっている。	2ヶ月毎に会議を実施し、事業所の状況報告と意見交換を行っており、欠席者には電話で意見等を聞いている。防災や感染対策に関する意見が多く出され、事業所の取り組み状況を地域に知ってもらえる良き機会になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや市役所を訪問した際はホームの便りを持参し運営や取組を伝えるようにしている。	法人本部を介して市の情報を得ることが多いが、申請等で出向いた際は担当者に事業所の状況を伝え、連携を図っている。市の介護相談員を受け入れる他、集団指導や研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束をしないことを共通認識しケアを行なうことができるよう身体拘束廃止のマニュアルを基に勉強会を定期的で開催している。玄関はセンサーを設置し安全を確認した上で必要以上に施錠しないように取り組んでいる。	指針は法人で作成している。事業所で委員会を3ヶ月に1回、研修会は2ヶ月に1回実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は外部から不審者が入り込むことがあったため施錠しているが、外に出たい利用者には、職員が同行して庭の花壇や野菜を見て楽しんでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2か月に1階は職員のミーティングの中で高齢者虐待を防ぐための研修を開催。また、現在入居している利用者の中で虐待に繋がってしまいそうな困難事例が無いかを話し合う機会も設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者および職員は外部・内部研修で理解を深めるようにしている。実際に成年後見制度を利用できるよう協議、支援をおこなった事例も見られます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居に関する説明を行なう際は事前に入居者ご本人・ご家族の不安な点や疑問などをしっかりと伺った上で、文書を用いて十分に時間をとり説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	遠慮なくご意見をいただけるようご意見箱を設置している。ご意見・ご要望があった際には速やかに記録に残し職員ミーティングやカンファレンスで話し合いを行ない、運営の改善に反映させる体制をとっている。	利用者からの食べ物や外出の要望は希望に沿えるように支援している。家族には年1回のアンケートや面会時・電話等で要望を聞いて対応に努めている。居室面会希望の家族に、居室の見学後に玄関で面会をしてもらうことで了解を得た事例がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の相談・協議など以外にも職員のミーティングや運営推進会議等にて意見交換を行なうことで業務改善に反映できるよう努めている。	管理者は朝礼等の機会をとらえてできるだけ早期に問題等の解決を図るように努め、毎月のミーティングでも意見を業務改善に反映できるようにしている。管理者は年1回の個別面談や個人相談で意見・希望等を聞いて対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を個別に行ない、取得後は本人の意向を尊重しながら職場内で活かすことができるよう環境づくりを行なっている。休みの希望についても尊重しながら勤務を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を促し、研修後は職員ミーティングで報告を行ない全職員で共有ができるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同じ立場同士で集まる管理者会議へ参加、交流や意見交換を行なっている。また他事業所へ助勢という形で訪問し交流や意見交換を行ない、自事業所へ持ち帰り活かすようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には本人との面談を行ない、その方の不安や思いを受け止め、意向にできるだけ沿う形で環境整備を行ない、安心して暮らすことができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始するまえに面談を行ない、家族が求めていることや不安について聴き取り、対応については複数の選択肢を提示し選択していただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の実情や要望を基にまずはスタッフで話し合い、必要な支援などについて意見交換を速やかに行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援が必要なこと、支援が必要であっても見守ってほしいことなどを見極め、生活に自信を持つことができるよう、日々の支援やケアプラン作成など配慮を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以降、外出の際の制限は増えたが、面会や電話での対話を続けて頂くことで本人と家族との関係づくりを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以降、散歩や買い物・外出や地域での行事等への参加は行なえていないが、ホーム便りや電話・手紙の取り次ぎを行なうことで関係の継続に努めている。	予約にて家族は玄関で面会している。手紙・はがき・電話等の取次ぎもしている。毎月便りを家族へ送付して事業所の様子を報告している。馴染みの美容師の訪問がある。希望により買い物や利用者の自宅へ職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し利用者同士の関係性が築けるよう仲介を適宜行なうことで、個性を持ちながら利用者同士の関わりを持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も見舞い・面会へ赴き、困り事が無いか相談に乗ることで、今後のサポートができるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中でふとした時に出てくる言葉や仕草から思いや意向を把握し家族とも共有している。	日々の会話の中で意向を聞いている。困難時は、仕草・動き・表情等から本人の思いを把握してカンファレンス等で話しあったり、家族へ聞いたりして、職員間で情報を共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしについて本人・家族・前担当ケアマネジャーなどから聴き取り把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中で、変化していく心身状態などの把握を行ない、記録によって積み重ねていくようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を丁寧に聴き取り、主治医や訪問看護等の意見や職員の意見を基に、必要な支援を決定するようにしている。	本人や家族の希望を聞き、モニタリング時の職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングを6ヶ月毎に実施し、モニタリング結果や状況変化等の必要時に現状に合った介護計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を行なう際は事実や気づいた点について具体的に記入するよう心掛け、記録に細かに目を通すことで情報を把握・共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化する本人・家族のニーズに対して既存のサービスだけではなく他職種・他事業所のサービスやインフォーマルサービス等を用いることで柔軟な対応を行なっている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で築いてきた関係性をもとに協力体制を構築、定期的に交流や協力を得る機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向や状況に応じてかかりつけ医の選定を行なっている。受診時は付き添いを行なうことで日頃の様子や変化などを伝えるようにしている。	契約時に希望を確認し、かかりつけ医への受診を支援している。隣接の医療機関とは月1回の訪問診療及び24時間の医療連携体制を築いている。訪問歯科や訪問看護師による週1回の健康チェックを行い、他科受診も職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、口吊の関わりの中にとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約を結んでいる訪問看護ステーションより週1階健康チェックのために来所してもらっている他にも適宜相談に乗ってもらい、必要時には訪問もしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には速やかに入院先に入居時の情報を文書を交えてお伝えするようにし、環境が変わっても不安やストレスが軽減できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する時点で重度化・看取りに関する体制について説明を行ない、同意を得た上で入居して頂いている。入居後も運営推進会議や普段の情報提供などの時点で改めてお話をしてお話をしてご理解をいただくようにしている。	契約時に重度化の場合の対応について看取りも含めて指針で説明している。重度化の場合、選択肢の説明や医師による病状説明を行い、家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、隣接医療機関の協力を得て看取り介護も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングの際に勉強会を行ない、初期対応の訓練を行っている。実際に急変が起こった際の連絡体制についても準備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、火災を想定した防災訓練を実施し消防分遣隊や近隣住民等の協力を得て実施、桜島の噴火時の対応等についても市町村の発信している動画を視聴し対策を協議している。食料等も多めに備蓄している。</p>	<p>年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、1回消防署の立ち合いを受けており、町内会長や地域住民の参加協力がある。業事継続計画（BCP）を策定し、地震の避難訓練も年1回行っている。非常用の備蓄は、3日分の水・乾麺・米・缶詰・レトルト食品及びカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や生活歴を把握したうえで自尊心を傷つけないように心がけ支援を行なっている。	接遇研修を年1回実施している。言葉遣いは日頃から注意している。入室時のノックや排泄介護時のプライバシーに配慮している。入浴の同性介助やさり気ない声掛けなどにも気を付けている。利用者の呼称はさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話を大切にし、ゆっくりと話を聴く環境づくりを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースや望んでいる暮らしの支援ができるよう、日々の生活の様子を観察し生活歴も踏まえて、その時々様子をみながら対応を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えを選ぶ機会にはなるべく手に取ってご自分で選んでいただけるように時間を設けている。外出時だけでなく普段から身だしなみやおしゃれに興味を持って頂くようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で好みや食べたいものの希望を聴きとるようにしている。また季節感を少しでも味わっていただくよう、旬の食材を利用したり畑の野菜を活用している。	希望や旬の物を取り入れて調理し、ミキサー食を含め個々に応じた食事形態で提供している。利用者も下ごしらえや台ふきをしている。誕生日や行事の特別メニュー・仕出し弁当等を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については日々記録しており、食事がすすまない場合は個別に好みに併せて提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアがしっかりと行なえているか見守りを行ない、出来ない部分を支援するようにしている。また歯科の訪問もあり定期的に口腔ケアの指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者毎の排泄パターンを把握、出来るだけトイレを使用しでの排泄を支援し介護計画にも反映している。	昼間は立位が取れたり、2人介助でできる場合は、トイレでの排泄を基本に支援している。リハビリパンツと尿取りパットの使用で、個々に応じた適切な物を選択している。夜間は身体状況等により、オムツやパット交換で無理のないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えるよう乳製品（牛乳・ヨーグルトなど）を定期的に提供。日課の中に軽体操や立位訓練などの運動の機会を設け、出来るだけ自然排便がみられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ゆっくりと入浴を楽しむことができるよう毎日浴槽にはお湯を張って準備している。入浴を好まない方やお気持ちに乗らない場合には日を改める等の対応を随時行なっている。	週2回午前中に入浴を支援しており、柔軟に対応している。浴槽利用とシャワー浴が半々で、嫌がる利用者にも声掛けを工夫して支援している。同性介助にも対応し、冬はゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動的に過ごしていただくようレクリエーションや体操など適度な運動を行なっている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報については毎回分整理・確認し効能や副作用等を把握しながら与薬介助を行なっている。また薬剤師による居宅療養管理指導も受けており適宜相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理・洗濯物干しや洗濯物たたみなど、若干介助を要するような場合も一緒に行なっていただくことで達成感や自信を持って頂くように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍以降敷地の外に出る機会は少なくなっているが出来るだけ四季を感じて頂くよう外気浴や散歩を日常的に行なっている。気候の良い時には桜の花見やコスモス散策などを計画し参加して頂くようにしている。</p>	<p>天気の良い日は玄関口で、外気浴・日光浴をしたり散歩をしている。年間計画を作成しコスモス見物や希望に応じて自宅訪問を実施したり、敷地内の菜園で野菜を収穫したりして、できるだけ建物内に閉じこもらないようにして、外出を楽しんでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常的に使用するお金（日用品購入など）については希望がある場合には職員にて金銭管理を行なっている。手元に持っていたいという希望のある方はご家族と相談して少額であるがご自分で管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望に応じて手紙の代筆や固定電話から電話をかけたりタブレット端末などを用いてTV電話で対話ができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・洗面所、トイレには季節の花を飾り、壁には季節に合わせて入居者の手作りの作品を飾りつけを行なっている。</p>	<p>リビングは広くて明るい。窓を開けて換気を行い温度調節をして、よしずで日よけをしている。季節の花を玄関・洗面所等に飾っている。壁に多くの手作りの折り紙や塗り絵等を掲示している。ソファ・テレビがあり、畳のスペースもあり、寛げる場所となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にはソファを置き、玄関周囲や廊下には所どころに縁台や椅子を置き、散歩の際の休憩場所を設け、ゆっくりと過ごせるような環境づくりを行なっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真やアルバム、自宅で使っていたタンスなどを持ち込んでいただき、「自分の空間」として違和感なく居心地のよい環境づくりを行なっている。</p>	<p>居室にはベッドやタンス・エアコンが備えてあり、遮光のためよしずが掛けられている。本人は、使い慣れた寝具や必要に応じてテレビやソファ・鏡台・ハンガーラックを持ち込んだり、写真やぬいぐるみ・作品を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子の方同士でも行き違いができるよう廊下は広めに作られています。移動の妨げにならないよう整理整頓に心がけ、家具の配置にも配慮しています。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない